ドバイ日本人学校
学校だより
第６号

熱　砂

令和５年９月２２日
発　行

校長　加藤　達子

『日頃からの意識』の大切さを学ぶ

いよいよ 25 日（月）から，熱沙祭の特別時間割がスタートします。これまでも，昼食時に熱沙祭実行委員のやる気いっぱいの呼びかけがあって，少しずつ学校全体が一つの行事に向かって意識し，熱くなってきているのを感じます。

毎年，この時期になると強く感じるのは，当然ながら「練習の大切さ」です。練習でできないことは，本番でもできるはずがありません。自信をつける意味においても，繰り返し，みんなで心を一つにして練習することで観客の目を釘付けにする時間・空間が出来上がるのです。

19 日（火）に行われた「避難訓練」にも同じことが言えると思いました。「訓練だから・・」「適当にしておけば・・」という中途半端な『練習』では，突然の災害時に落ち着いて行動することはできません。一つひとつ真剣に取り組んでこそ「いざ！」という時に自分の安全や，命を守ることができるのです。

これは何事についても言えるのではないかと思います。例えば「熱沙祭があるから大きな声を出す」「熱沙があるからしっかり歌を歌う」・・というのではなく，普段から意識して生活していると，必要な力は十分身についてくるのではないでしょうか。朝や授業の合間の挨拶，教室での発表や音楽の時の歌声・・。毎日，幾らでも基本となる場面はあるのではないかと思います。

日頃から，「どんな力をつけたいのか」「どんな自分になりたいのか」を意識して取り組むことの大切さを，改めて学んで欲しいと願っています。

9 月 6 日（水）夏祭り

国際理解委員会の主催で，DJS 夏祭りが行われました。ドバイタイムには出店のような遊びを企画して大にぎわいでした。昼休みには，花火大会の動画を体育館で鑑賞して夏の祭り気分を盛り上げました。

19 日（火）避難訓練（火災想定）

在ドバイ日本国総領事館より山村副領事を講師にお招きして，ドバイの火災や避難についてお話しいただきました。その後訓練では，全員が静かに素早く校庭に避難することができました。